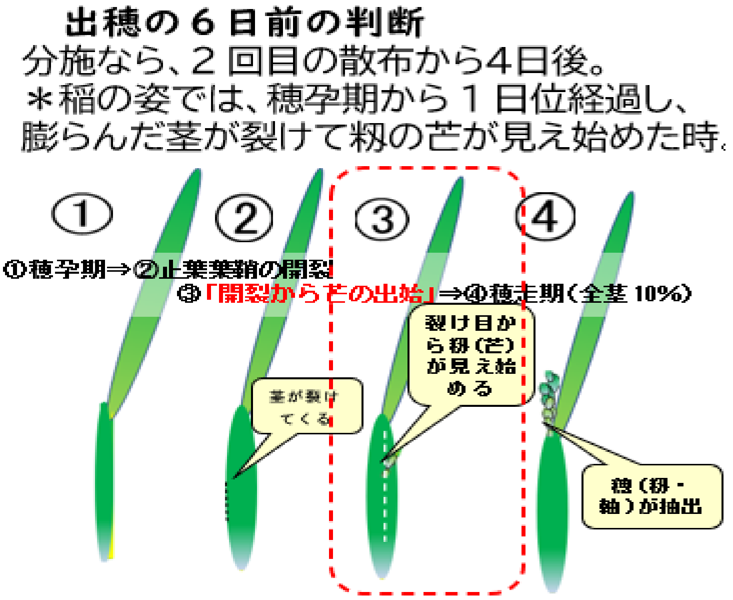
JA オリジナル

水稲緊急情報 7/17 号

気温	北陸地方	向こう１か月 07/19～08/18	10	20	70
		１週目 07/19～07/25	10	10	80
		２週目 07/26～08/01	10	40	50
		３～４週目 08/02～08/15	10	30	60
降水量	北陸地方	向こう１か月 07/19～08/18	40	40	20
日照時間	北陸地方	向こう１か月 07/19～08/18	10	40	50

１か月予報では７月下旬はやや和らぐもののかから １ か月は高温が続き、雨は少なく、日照は多い予報となっており、人間も稲も暑さ対策が必須となっています

①梅雨は明けてませんが、**気温が高く、雨が無い**状態が続いています。
②一部で用水が乏しく、**入水が難しい地域**も出ています。
③今年はコシヒカリ BL の配合が変わり、止葉が 14 枚出る可能性があり、**ほ場間だけでなく株間の差が大きく**穂揃いが悪い可能性があります。
⇒穂肥は幼穂形成期（穂の子供）からの日数が最も重要！出穂した時から遡りの日数を記載することがあるが、幼形期からの経過日数で考えるのが基本、穂揃が悪いと出穂期も把握しにくい。
④中干し後から**「白乾き」が続いている田んぼが多く**見受けられます、このままだと大きく減収し、追肥しても効果が出ない可能性もあります。
⑤**一発基肥**では６月の地温上昇、７月に入ってからの熱帯夜によって**穂肥成分が切れた可能性**があります
下記の対応策を、至急行って下さい。

□地域内で用水が平等に回せるよう、話し合いを行い「白乾き」の田んぼを無くす。
□株内で一番長い茎の根元を触り、丸みを帯びやや膨らで硬い部分がある茎を根元から抜き取り、カッターで茎の中心寄りわずか上を切り、節の上にある「蠟燭の火」の様に見える「幼穂」の存在・長さを測定する。★ｺｼﾋｶﾘは幼穂長 5mm のものがほとんど見えるようになったときから追肥できる。
□各事業所の無料貸出し SPAD（葉緑素計）を活用する。
★田んぼ外観では一番植え葉っぱ色が目立つ。葉先黄化していると、かなり褪色して見えるので「佐渡米ｶﾚﾝﾀﾞｰ」を参考に SPAD で展開た葉の２枚目先端から 1/3 を測定する、田んぼ対角線に歩きながら 20 株以上測定してから平均値出すと精度の高い診断となる。
□**一発基肥でも、**出穂６日前に SPAD 測定し下回っていたら必**ずチッソ 1kg/10a 追肥**する。